資料　３

平成２８年度　地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要　（全体）

中部様式１

海津市地域公共交通会議

平成２５年１２月５日設置
フィーダー系統　　平成２７年６月２６日　確保維持計画策定

１．協議会が目指す地域公共交通の姿

- 地域の特性と背景
  - ・人口は約 36,000 人、高齢化率は約 29%（H28.4）と高く、人口減少、少子高齢化が進行。
  - ・本市の中央部を流れる揖斐川以東の地域は平地が広がり、集落が点在。市の西側は急峻な養老山地とその裾野に広がる扇状地・平地。
  - ・市内の公共交通は、養老山地沿いに走る養老鉄道、大垣までの路線の名阪近鉄バス、市のコミュニティバス、タクシーで構成。コミュニティバスは、合併前の路線形態を引き継いだ 8 路線で運行されていたが、平成 27 年 10 月 1 日より、定時定路線 3 路線＋デマンド交通に再編。
- 地域公共交通網形成計画の基本方針及び期間

【基本方針】
①養老鉄道・名阪近鉄バスのサービス充実
②養老鉄道・名阪近鉄バスと海津市コミュニティバスとの接続強化
③朝夕の通勤・通学対応と昼間の買い物・通院・温泉利用等の市民ニーズ及び観光に配慮した海津市コミュニティバスネットワークの形成
④公共交通を守り育てる体制づくり

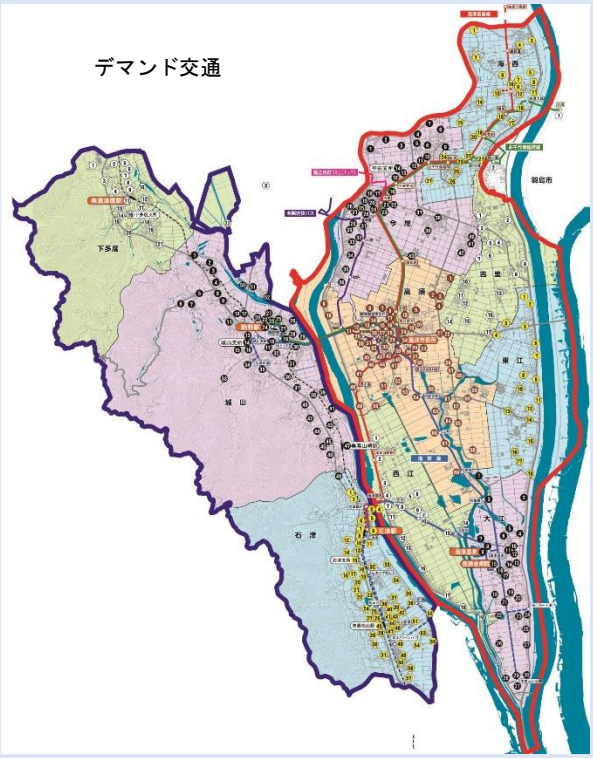
【期間】平成 27 年度～平成 31 年度の 5 年間

- 公共交通の将来像

【まちづくりと連携して日常生活に必要な公共交通を確保することにより、定住促進・地域の活性化を目指す】

◎幹線系統補助、フィーダー系統補助の位置付け
名阪近鉄バス（海津市役所～今尾～市民病院前～大垣駅前）：幹線系統補助
海津市コミュニティバス（デマンド交通）：フィーダー系統補助

◎公共交通網見直しの方向性
定時定路線 3 路線は、通勤・通学等で市外への連絡、市内の幹線軸として運行。
デマンド交通は、昼間(8：30～17：00)の買い物、通院、温泉利用等の利用を想定。



２．計画の達成状況の評価に関する事項

- 公共交通網評価の基本的考え方
  形成計画に示した基本方針ごとに評価指標を設定し、達成状況を評価
- 評価指標及び評価基準

基本方針①：養老鉄道・名阪近鉄バス利用者数（維持）
基本方針②：交通結節点における公共交通機関相互の待ち時間（概ね 20 分以内）
海津市コミュニティバス幹線系統が接続する養老鉄道駒野駅・石津駅の乗降者数（維持）
基本方針③：海津市コミュニティバス（デマンドを含む）の利用者数（3%増）
市民アンケート調査で「公共交通（電車・バス）の便利さ」について不満と回答した市民の割合（1/3 に減少）
基本方針④：地域ごとに海津市コミュニティバス利用者数の目標を定め、達成度を評価（市内 10 地域のうち半数以上が達成）

３．目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

１）取組み経緯

○平成 17 年に 3 町合併があり、その後も基本的に合併前の路線が維持されており、全 8 路線で運行されていた。しかし、地域内の各集落を連絡するルートだったため、目的地までの迂回が多く、利用者数は、海津羽島線等の 3 路線以外は減少傾向であった。また、市民からは目的地までの所要時間が長く不便等の声があった。このため、幹線の定時定路線 3 路線とデマンド交通に再編した。
○協議会は、年 3 回実施。
○平成 27 年 7 月に「海津市地域公共交通網形成計画（海津市公共交通計画）」を作成。

２）目標を達成するために行う事業・実施主体

①各事業の着手時期・実施期間及び事業主体

【補助対象事業】
●地域公共交通確保維持改善事業
○デマンド交通の運行（フィーダー）
【平成 27 年 10 月より運行、海津市実施】
※平成 28 年 10 月より海津羽島線を海津温泉・医師会病院・石津駅まで延伸
○名阪近鉄バス海津線（幹線系統）【名阪近鉄バス】

【非補助事業】
○海津市コミュニティバス（定時定路線）の運行
【平成 27 年 10 月より運行、海津市実施】

②公共交通利用促進計画

【非補助事業】
○デマンド交通住民説明会の実施【H27 年 7 月～H28 年 5 月で地域別、海津市実施】
○海津市産業感謝祭で公共交通のＰＲ【H28 年 10 月 29 日、30 日、海津市実施】
○海津市公共交通利用ガイド（鉄道・バスのルート、時刻表）の作成・配布【H28 年 9 月、海津市実施】

4．具体的取組みに対する評価

（1）生活交通維持改善計画の目標に対する評価　《目標未達成》

海津市コミュニティバス（デマンドを含む）の年間利用者数の目標　131,218人から132,000人に増加

[H28年度実績は、113,117人/年]

（2）形成計画の目標に対する評価（目標H31 年度）

【評価】○：目標達成　　△：未達成

《基本方針①》　養老鉄道・名阪近鉄バスのサービスの充実

◇乗降者数【目標＝維持】

		目標（H31 年度）	H28 年度	H27 年度	増減（H27 年度比）	評価	備考
養老鉄道（市内乗降者数）		2,700 人/日	3,180 人/日	2,584 人/日	+23.1%	○	平日
	美濃松山	—	905 人/日	712 人/日	+27.1%	○	
	石津	—	637 人/日	483 人/日	+31.9%	○	
	美濃山崎	—	173 人/日	156 人/日	+10.9%	○	
	駒野	—	1,122 人/日	892 人/日	+25.8%	○	
	美濃津屋	—	343 人/日	341 人/日	+0.6%	○	
名阪近鉄バス（市内乗降者数）		70 人/日	—	—	—	—	

※養老鉄道は、乗降調査による。（H27 年 5 月 12 日、H28 年 10 月 18 日）

《基本方針②》　養老鉄道・名阪近鉄バスと海津市コミュニティバスとの接続強化

◇公共交通機関相互の待ち時間【目標=概ね 20 分以内】

H28.10 のダイヤ改正時には、通勤・通学時の乗継は 20 分以内を目標にした。ただし、その他の時間では、20 分以上がある。

◇海津市コミュニティバス幹線系統が接続する養老鉄道駒野駅・石津駅の乗降者数【目標=維持】

	目標（H31 年度）	H28 年度	H27 年度	評価	備考
石津駅	490 人/日	637 人/日	483 人/日	○	平日
駒野駅	900 人/日	1,122 人/日	892 人/日	○	

《基本方針③》　朝夕の通勤・通学対応と昼間の買い物・通院・温泉利用等の市民ニーズ及び観光に配慮した海津市コミュニティバスネットワークの形成

◇海津市コミュニティバス（デマンドを含む）の利用者数【目標＝3%増】

目標（H31 年度）	H28 年度	H27 年度	増減（H27 年度比）	評価
135,000 人/年	113,117 人/年	136,481 人/年	△17.1%	×

◇市民アンケート調査で「公共交通（電車・バス）の便利さ」について不満と回答した市民の割合【目標＝1/3 に減少】

目標（H31 年度）	目標（H28 年度）	H28 年度実績	H22 実績値	評価
20.0%	30.0%	63.4%	59.1%	×

《基本方針④》公共交通を守り育てる体制づくり
◇地域ごとに海津市コミュニティバス利用者数の目標を定め、達成度を評価
【市内 10 地域のうち半数以上が達成】

目標 （H31 年度）	H28 年度	H27 年度	評価
市内 10 地域のうち半数以上が達成	なし	なし	―

（3）全体評価

○海津市コミュニティバスの利用者数は減少している。H27.10 月の再編時に運賃を値上げした(100 円→市内 200 円・市内外 300 円)ことや、高校生徒数の減や土日運行をしていないことが一因と考えられる。
○養老鉄道の利用者数は増加している。中学校の統合による電車通学の増加が寄与している。

5．自己評価から得られた課題と対応方針

【課題】

① 目標の達成状況に関する課題
- 海津市コミュニティバスの利用者数は減少傾向。利用促進を図るための運賃体系（企画切符等）の検討が必要。
- 人口減少が進む中で、生活交通だけでなく、観光交通への対応等についても検討が必要。今年度、団体観光に対応してデマンド交通を運行した実績があり、今後、柔軟な対応の仕組みの検討が必要。

② 公共交通ネットワークに関する課題
- デマンド交通の利用者ＯＤを分析した結果、市の北部から海津温泉への利用が多い。この区間は、定時定路線がないため、定時定路線の延伸により、利用者の運賃負担の軽減、デマンド交通の効率運行に向けた検討が必要。
- 養老鉄道の維持に向けて、沿線市町で「養老線地域公共交通再生協議会」を設置し検討中。

③ 公共交通の維持に関する課題
- デマンド交通住民説明会において住民の声を把握してきたが、今後は、利用促進に向けて、地域との一体的取組みを推進することが必要。

【対応方針】

① 海津市コミュニティバスの企画切符等の検討
②観光客受け入れのためのデマンド交通予約方法等の検討
③海津羽島線の海津温泉・石津駅への延伸
（H28.10 月から実施中）
④地域との協働の取組（利用促進に向けた住民意見交換会等の開催）

平成２８年度　地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

中部様式２

海津市地域公共交通会議　　平成２５年１２月５日設置

１．直近の第三者評価の活用・対応状況

直近の第三者評価委員会における事業評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
公共交通利用ガイドとデマンド交通利用ガイドの作成・配布について評価。 今後も充実を図っていくことに期待。	○平成 28 年 10 月のルート・ダイヤ改正に向けて、昨年度よりも小型版で持ちやすくした公共交通利用ガイドを作成。	○今後もダイヤ改正等に合わせて、公共交通利用ガイドを作成・配布する。

２．アピールポイント

《利用実態に合わせてデマンド交通の一部を固定ルート化し、効率運行を実現》

朝、同じ目的地へ通う５人の利用者の予約時間が異なっていたため、2 台の車両を目的地まで運行していたが、利用者は固定されていることから、個別に予約時間の調整をお願いし、運行時刻とルートを固定化し、1 台の車両での運行を実現できた。これにより、デマンド交通車両に余裕が生まれ、他の利用者の運行に活用できるようになり、効率化が図られた。

《高齢者の運転免許証の自主返納を推進》

デマンド交通を利用する際に、免許証を自主返納した人に渡される運転経歴証明書を提示すれば、運賃が半額になる制度を実施。これまで自主返納は月平均 1 人だったが、制度開始後に 5 人が申請するなど、効果が発揮されている。

《デマンド交通利用のための説明会をきめ細かく実施》

デマンド交通の利用方法の説明会を、運行開始前の 2 か月間及び運行後も含めて、延べ 40 回開催し、約 1,100 の方の参加を得た。きめ細かく説明することに留意したため、参加者からは、よくわかったとの評価を得ており、利用促進につながったといえる。